

# 非核の政府を 求める大阪の会

## ニュース

第181号 2017年9月1日

非核の政府を求める大阪の会 豊島 達哉  
 〒542-0012 大阪市中央区谷町 7-3-4 (新谷町第3ビル 210号)  
 TEL.06(6765)3032 FAX.06(6765)3033  
 URL・http://hikaku-osaka.jp/  
 E-mail・hikakuosaka@hotmail.com  
 hikaku-osaka1986@nifty.com

### 国連核兵器禁止条約は世界の多数の流れ

被爆国

# 日本政府はただちに調印せよ



▲長崎大会の開会総会の様子

2017 WORLD CONFERENCE AGAINST A&H BOMBS  
 原水爆禁止2017年世界大会-長崎  
 核兵器禁止条約を力に、核兵器のない平和で公正な世界の実現

台風という悪天候の中、七〇〇〇人が参加した歴史的な原水爆禁止二〇一七年世界大会(長崎)は、核兵器禁止条約成立をうけて運動の確信と未来への展望を交流しあって大成功をおさめました。大会には、国連で核兵器禁止条約を成立するのみ尽力をつくされた国連軍縮問題担当上級代表の中満泉さん(下の写真)をはじめ各国政府代表、国内外の反核平和組織の代表、そして大阪から三〇〇名をこえる代表団が参加しました。当会から広島大会には、常任世話人・大商連の小掠由佳さん、長崎大会には事務局の谷本富美子さんが参加しました。

原水爆禁止世界大会・  
 広島に参加して

史上初の核兵器禁止条約が国連で採択された年に、世界大会・広島大会に参加させていただき、本当にありがとうございました。

広島駅から市電にのり、そこで私の前に立っていた地元の方と思

われる三人の婦人の「今日は人がおおいなあ、何かあるのかな」の会話に「え、今日は八月六日やで。大人がそんな認識で大丈夫？」と、思いながら大会会場へ向かいました。

富田先生による国際会議宣言で、「核兵器禁止条約は、被爆者と世界の人々が長年に渡り熱望してきた核兵器完全廃絶につながる画期的なものである」と、いう言葉に、「ご自身が受けた苦しみを誰にもさせたくない」という被爆者の方々の熱い思いを感じました。そして、海外の若い方々の平和へのスピーチを聞き、被爆国である日本の若い世代にも、核兵器廃絶に向けた運動

を伝え、実現させたいと思いました。

大会後、平和公園や原爆資料館も見学しました。平和公園を散策中、少し雨が降ってきました。何か川底や地面から「水を求めて苦しまれた方々が、二度と繰り返させたらあかん、あきらめんと核兵器廃絶の声をひるめて絶対思いは叶うから」と言われているように感じました。資料館では、外国人や見学者で混雑の中でしたが、写真や展示をみるたびに涙があふれてきました。

含め多くの方は想像もつかない。今朝の市電の「なんかあるん？」と話していたご婦人たちの会話を思いだし、自分もどこか日常にかまけていることが多くある意味あの方たちと一緒になんやと反省しました。この世界大会・広島大会に参加させていただいたことを機にあらためて、今日感じたことをしっかりと胸に、地球上から核兵器を廃絶するためにヒバクシヤ署名を集めていきたいと思えます。ありがとうございました。

- 〔非核五項目〕
- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争阻止、核兵器廃絶の実現を求める
  - ② 国是とされる非核三原則を厳守する
  - ③ 日本の核戦場化のすべての措置を防止する
  - ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
  - ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

平和公園から、広島駅までバスにのりました。車窓からみえる広島街は大阪となら変わらない風景、この日常が突然に地獄となるなんて・・・私も

大商連 小掠由佳



### 2017.6.18 ニューヨーク 行動三日目報告 非核大阪の会常任世話 人 民青同盟大阪府委 員会常任委員大勝地平

三日目は午前中にニューヨーク観光を行ったあと、「平和と地球国際ネットワーク」という団体主催の「二つのたたかい、多くの戦線：核兵器、戦争、壁、温暖化にノーを」というフォーラムに参加しました。フォーラムは「生存者の抵抗；人道的な結末」「核兵器要因、影響および反対運動」「核軍縮のための組織…先頭に立つ青年たち」「禁止条約のその先へ」という四つのテーマに、それぞれのパネリストが発言し質疑応答がされるという形式で行われました。集会では、被爆者の箕牧さんの被爆証言と「核兵器は今すぐなくさないといけない、私たちは核兵器禁止条約をすべての国が結ぶよう求める」というメッセージから始まり、

様々な背景やアプローチをもったパネリストが、国連核兵器禁止条約の意義や今日的役割、運動課題などが議論されました。

印象に残ったのは「核軍縮のための組織…先頭に立つ青年たち」のテーマでした。パネリストとして発言

した弘中孝江さん（広島民青同盟）の「核兵器禁止条約が結ばれれば、核兵器を保有しているアメリカと核の傘のもとにある日本の青年の連帯が重要になる」という発言が、これからの私たちの直近の課題と役割を示していると感じたのをはじめ。「難しい言葉で青年と対話する重要性や青年の発言権や様々な年代やコミュニティの交流について」

発言したアレキサンダーさん（ニューヨーク州ピースアクション）、「カザフスタンの核被害や青年の同世代での交流や取り組みの重要性」を語ったヌルザンさん（廃絶二〇〇青

年ワーキンググループ）、「青年への情報共有や教育の大切さ、青年の潜在能力や成長への信頼でどの運動でも活躍できる」と発言したシンさん（アンプリファイ）など、同世代の活動家の意欲や課題・展望などを共有できました。

集会後は大阪代表団で交流会を開催し、今回のニューヨーク行動を振り返りながら、これからの決意も含む感想交流を行いました。

三日間通して、世界の本流は核兵器廃絶を求める市民社会の声やそれに応える政府や国際機関なのだということを実感できました。また現地を改めて、対話を通じた草の根の活動の重要性や社会変革運動の多様性について、その運動の連帯や共同の重要性を考えさせられました。これからニューヨーク行動を感じ、

考え、得たことをまずは色々なところで報告し、今年の世界大会の成功へ結び付けてい

たらと思えます。改めて、代表として派遣していただいた「非核の政府を求める大阪の会」及びカンパなどでご支援いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

#### 新シリーズ No.1

#### “森田敏彦先生と歩く戦跡”

（参加者お二人の感想文を紹介します）

#### ちよつと見る目が変わったかな？

六月一七日、「非核の会」主催の大阪大空襲の跡を歩く第一回「戦跡ウォーク」に参加させていただいた。

特段の関心があった訳でもないけれどたまたま私の住む東淀川地域が対象だったこともあり気楽な思いで足を運んだ。

淡路から天六・長柄橋へとおよそ五時間の戦跡めぐりだった。訪ね歩いたのはアジ



ア・太平洋戦争における犠牲者の慰霊碑や墓地、戦争の傷跡を残す身近にある戦跡だった。大阪では三月の大空襲で殲滅できなかった都市周辺が六月に入り大量焼夷弾攻撃で狙い内にされたという。至る所で惨状が繰り広げられた。

東淀川地域は六月、三回にわたり激しい攻撃に晒された。七日にはB29（一機四〇〇〇発近く）の焼夷弾を抱える（四〇九機、最強の戦闘機P51が一三八機で襲い掛かった。近隣区域も巻き込んで焼き尽くし、さらに低空飛行でじゅうたん爆撃を行った。この空襲

で東淀川区では一三〇〇〇戸が全焼、約二六〇〇〇人が被災したとのこと。

私のウォーキングコースにしている淀川の兩岸は大火にみまわれ、長柄橋では避難する市民に爆弾と機銃掃射が容赦なく浴びせられ四〇〇名の死者がでた。

お隣の旭区・しろきた公園でも機銃掃射で一〇〇〇名近くが死亡したとされている。「川筋にたくさんの死体」「焼けて体があついで川辺にみんないった」そこへ機銃掃射が襲った。「崇禅寺の駅から寺までは死体が累々」「空襲のあと長柄橋の上から北の方を見ると尼崎の神崎橋までまる見え。どこの家もないし、くすぽつてる」。資料は逃げ場を失った人々の惨状を語っていた。

爆弾で一瞬に奪われた命、苦しみながら息絶えた命、戦禍から逃げまどう命。日の出町、崇禅寺、柴島など周辺でも多く

の戦死者をだした。私たちはそれらの地域にある共同墓地や慰霊碑などを訪ねた。碑に刻まれたそれぞれの名前には一つ一つの命があったはず。資料に記された体験者の証言が甦る。



この日最初に訪れた戦跡は、阪急淡路駅からほど近いところにある公園や住宅地の片隅にある高射砲陣地跡だった。こんな身近に戦争の遺物があることにビックリ。今は草蒸して朽ちた砲台外壁がポツンと歴史に取り残されていた。

か所が残存。近くに二つ目が在った。ここは現在倉庫として使用されていた。持ち主のご厚意で中を見学させていただく。一見道路に沿った静かな住宅の一部にしか見えないが、薄暗い倉庫に足を踏み入れると異様な構造物に威圧された。黒ずんだ鉄筋コンクリートの大きな円柱や、梁、床版などむき出しの砲台が当時の形をとどめて目の前に在る。タイムスリップをした感じだった。戦後七〇年余の今でもここが敵を迎え撃つ激しい陣地であったことを充分に伝えていた。こんな町角に貴重な戦争の生き証人が残っている！

この時の焼夷弾で柴島駅近くの法華寺は焼け落ちたとのこと。墓地に足を踏み入れ圧倒された。当時の大小墓石の全てが焼け焦げ、多くが欠け落ちヒビが入っている。茶褐色に焦げつき乾いた墓石が静かに並んでいる様は、戦火がまだつい最近の出来事として迫ってくるようだった。墓まで焼き尽くす戦争があった。

夕方、最後のコース、長柄橋戦跡を終わる頃にはガイドの森田先生を除き皆へトヘト。それでも良い経験をさせていただいた一日となった。私自身はこれから何気なく歩いて淀川河川敷で悲惨な歴史に思いを馳せるだろうし、街角のちよつとした碑や塔も少し気になりましたから。貴重な戦跡の保存や戦争を語り継ぐ大切さを知らされた取組みでした。

「戦争」と聞いて私たち一〇代では、恐らく今の日本とは関係なかったり、過去のことだと考える人の方が多数派だと思えます。しかし、我々が暮らす町も過去に戦争を体験し、傷跡は今日に至るまで残っているのです。今回参加した戦跡ウォークでは、そんな傷跡を何箇所か巡ることができました。

「西淡路高射砲陣地」は、一見円盤のような異様な雰囲気のある建物ですが、戦時中は上部に高射砲が取り付けられていたそうです。今の景色では考えられません。

柴島浄水場の弾痕は、ただの上部が壊れたコンクリートに見えますが、空襲によって破壊されたらしいのです。戦後七〇年以上経ちましたが、まだ「証拠」が誰にも見える所に残っているのには大きな意味があると思えます。これらの戦跡は、説明

[7・26田辺模擬原爆追悼集会在年々発展しています！]  
7・26田辺模擬原爆追悼実行委員会の主催で16回目の田辺模擬原爆追悼式が行われました。92歳になられた龍野繁子さんが今年も自らの体験を語り、広島、長崎の被爆者や大阪空襲訴訟の元原告などが挨拶、犠牲者を悼み、平和と核兵器のない世界の実現を願って黙祷を行いました。龍野さんは「自分の意見を持ち、互いに話し合いで解決することを学んで下さい。今の平和が続きますように」と参列した小中学生に語りかけました。近隣の田辺小学校や北田辺小学校など4校の児童代表や我孫子中学校、昭和中学校、長吉西中学校など8校の生徒代表などが「戦争ではなく、話し合いで解決できるようにしなければ」「ここで聞いた事を友達に伝えたい」と決意を語りました。今年も200人以上が参加、平和が脅かされつつある今日、次世代へ語り継いでいくことの大切さを痛感した追悼式でした。近くの須田画廊で「模擬原爆展」も開催され、新資料も展示されました。(左写真：決意を表明する子供たち)



会を増やさなければなりません。そうすれば、「戦争」を見る目も変わるかも知れないのです。折角残っているんだから、最大限教育などに利用して貰いたいと思う限りです。▼(大阪平和委員会青年学生部・高校生 溝部光)

(東淀川区中野綾子)

# 非核平和自治体を 寝屋川市 訪問しました

七月一九日、寝屋川市と非核・平和施策について懇談会を持ちました。当会から八名が参加（豊島事務局長、山川、切間両常任世話人、松山世話人、地元の被爆者二名、牛山、谷本両事務局員）、市当局から二名（人・ふれあい部人権文化課の次長兼課長、係長）が対応されました。当市における現在の取り組み状況などの説明を受け、



質疑応答を通して、市当局が、市民に対して非核・平和啓発活動に尽力されている実態をリアルに知ることができました。行事が八月に集中していましたが、列挙すると次の様な取り組みが実施されていきました。八月六、九、一五日に市民へ黙とうの呼びかけ。夏休みを活用した平和資料館を見学する「親子平和バスツアー」。原爆写真展示、戦時食「すいとん」試食、平和に関する講演など多彩な企画の「恒久平和を願う市民の集い」。市民へ折鶴の提供

を呼びかけ、恒久平和を願う千羽鶴として平和の塔に捧げる「恒久平和の式典」。また、近隣三自治体共催行事（今年は今担当）

として、戦時中の生活を描いたアニメ（この世界の片隅に）の「映画鑑賞会」。市内学童生徒から平和に関する作文募集と市民への開示。通年企画として、市の花「バラ」の中から、アンネのバラ、ピースなど平和にまつわる四品種の苗を市民へ普及と、咲かせた花の写真展開催。また、地元の平和団体との意見具申も行われ、とりわけ、被爆者団体「広長会」との交流、意見交換も綿密に行われているようでした。一時間余でしたが、市役所内の会議室を提供していただき、終始和やかな雰囲気の中で懇談することができました。

## 新任世話人紹介

「私のうたごえ人生」立川孝信  
私は一九四八年生まれです。一八歳で大阪市役所に就職した時、年末に東京で開催される「日本のうたごえ祭

典」に誘われました。武道館で二万人もの人が心を一つに歌う姿は感動を通り越し驚愕の光景でした。それから私の「うたごえ人生」が始まりました。大阪市役所グリーンコーラスに入団しうたごえで職場を明るくしようとうたごえ喫茶や様々なうたごえ会・演奏会を取り組み平和で健康なうたごえを広げてきました。特に演奏活動では社会的テーマで市民合唱運動を取り組み、大阪大空襲・被爆二世・中国残留孤児などを取り上げ専門家と協力して作品を創造しました。特に大きな運動として成功したのは職場の健康問題を取り上げコミュニケーションを創り、新聞にも大きく取り上げられ、その闘いが裁判勝利し労働者を励ます素晴らしい運動になりました。

この間「大阪のうたごえ協議会」の常任委員としても活動し、一九八九・二〇一三大阪城ホール・一九九八大

**募集開始します!**

**『非核意見広告ポスター』**

テーマ:「国連核兵器禁止条約は世界の流れ、日本政府は被爆国としてただちに調印せよ」

募集大綱: 団体一口 3,000円  
個人一口 1,000円  
申込締切は10月15日

問合せ・申込先  
「非核の政府を求める大阪の会」事務局  
意見広告係

E-mail:hikaku-osaka1986@nifty.com  
E-mail:hikakuosaka@hotmail.com

阪ドームの「日本のうたごえ祭典」を超満員にして成功させてきました。

二〇〇〇年からは男声合唱団昂で活動し、次々と団員が増える中でレッスンス場を作ろうと言うことになり、何と私がオーナーとなり中央区谷町六丁目に「ねむかホール」を作りました。そして定年を機に泉北から中央区に転居してきました。とても快適で便利な暮らしを満喫しこの街になじんでいたところ共産党の後援会長をさせられ挙句の果てに市会議員まで立候補させられました。この歳でと

いう抵抗はありませんが橋下維新の文化潰しや人権蹂躪の思想調査をするなど怒り心頭でしたから「みんなの力で」の歌を作ったり大阪市歌をうたいガンガン喋りまくりました。みんなの力で都構想を否決勝利したことは大きな喜びです。まだまだ維新との闘いは続きますが文化の花咲く住みよい街をめざして平和のうたごえを広げていきたいと思えます。

お詫び.....  
「非核と科学」と「宗教者と非核・平和」のシリーズは次号に掲載させていただきます